



开源社



Nico-Tech ShenZhen
ニコテック深圳コミュニティ

スプリンターネット（主に中国）に対する 話題提供

高須正和

开源社（中国オープンソースアライアンス）

スイッチサイエンス

早稲田ビジネススクール

大公坊創客基地(iMakerBase)

ガレージスミダ研究所

ニコテック深圳コミュニティ

<https://github.com/Nico-Tech-Shenzhen/ChinaOpensourceResearch>



自己紹介：高須正和

中国深セン在住,事業/研究活動/コミュニティ

事業：スイッチサイエンス グローバルビジネスデベロップメント

中国深圳在住、様々なパートナー開拓、共同開発、輸入、投資などを行っています。

代表的なのはArduino,Raspberry Pi, 深圳M5Stackシリーズなど

研究活動：早稲田大学非常勤講師 「深圳の産業集積とマスイノベーション」

早稲田大学非常勤講師/リサーチイノベーションセンター招聘研究員

ガレージスミダ研究所 主任研究員

大公坊創客基地(iMakerBase)

著書5冊「プロトタイプシティ」「ハードウェアハッカー」(翻訳)など

研究分野は経営/オペレーションズ・リサーチ/イノベーション

コミュニティ：ニコ技深圳コミュニティ Co-founderほか

开源社(中国オープンソースアライアンス)唯一の国際/日本人メンバー

社会的な価値が生まれる前、事業や研究でもできないところをやる。

面白ければ仲間が増えるし、熱が冷めると終わる

中国のインターネット管理(原則)

1. インターネット回線の利用は基本実名認証

- (プロバイダ、携帯電話契約、wifi利用、などは認証が必要
SMS認証が多く、中国の携帯電話は身分証がないと契約できない)
- 一方でちゃんと管理されてる法人同士では海外本社に専用線やVPNをひける

2. インターネット上のサービス利用は多くが本人認証必要

- 同じくSMS認証が多い。行政関係（ワクチンとかイベント参加とか）
では中国の身分証（ナンバーあり）必須のものも多い
外国人向けと中国人向けでサービス内容が異なることも多い。たとえば外国人はビリ
ビリ動画の生放送ができない

3. 不特定多数へのサービス（サーバ立ち上げなど）は許認可制

- これはMicrosoft中国のサイト ICPxxというのが許認可番号
この番号のないサービスは「ナンバープレートのない車」みたいな状態で、
いつサービスを止められても文句を言えない

中国のインターネット管理(運用)

4. ICP番号による許認可には項目があり、義務や責任が伴う

-SNS的,Web2.0的なサービスだと監視体制の報告など、義務が増える

-例：マイクロソフトでは、Office365やteamsなど、SNS的機能を持たないサービスは自社中国法人で行っているが、マインクラフトは中国大手のネットイースにライセンス提供
ネットゲームなどもテンセントなどに委託される例が多い

5. 管理の隙間は存在する

-GFWにより許認可なしのサービスは全遮断のはずだが、
実際は海外の大学やGithubなど、いくつかのサービスはグレーのまま見れたりする（いつ止められても文句は言えない）
-小規模だと厳密に管理されないことが多く、バズらない状態ではSNSで好き勝手に言っても、反政府的な話でバズるとあとで公安がやってきたりする

6.きちんと申請すると、海外の人が中国で不特定多数に生放送できたりする

-中国法人が責任者として中国の配信プラットフォームに申請
（もちろんテーマや出演者等の説明が必要だし、本番で問題があると後で怒られます）

中国のインターネット管理どうよ(高須の私見)

この管理は厳格か？

他のものに関する中国の管理と同程度で、テレビ局とインターネットサーバで同じような法律を適用するのは、ある程度理解できる。基本僕は外国人なので、中国人と中国政府の話は他人事である（アメリカの銃規制、オランダの大麻自由化ぐらいの当事者意識）。プライバシーがないことより、社会が安全になったほうが、外国人としてはありがたい。

日本ではこういう管理をやらないほうがよい。マイナンバーやドローン規制のように、もっとやくたたずの管理になりそうだし。中国のネット活用から学ぶことはたくさんあるが、ちゃんと時間かけて具体的に学ぶべきだ。

インターネット活動していて不都合を感じないか？

いくつも敏感な話題があるのは面倒。ただ、ポリコレやジェンダー等でネットでおおっぴらに話しづらい話題は日本でも日々増えている。そもそも高須は中国語に不自由で、限定的なことしか言えないし。経済や技術に関してはなんの不自由もなく、むしろ日本の言論空間よりタブーがない。

インターネットは中国社会をどう変えたか？

それまでの中国は、コネがある人となない人で差がすごく大きい（たとえば国民の80%が銀行口座がなく住宅ローンが借りられなくて経済発展に限界がある）国だった。2014年サービス開始のアリババ/アリペイはネットとAIによる事業資金貸付を行い、結果中国は起業大国になってGDPが爆上がりした。

スマホやIoTほかインターネット技術は、政治的自由のみに作用するのではない。中国はインターネット技術を大変上手に利用して、社会をそれ以前よりマシにした。今も結果は不平等だが、チャンスはそれ以前より平等になった。

スプリンターネットへの対応

中国について語る時の残念な現状

- ・プロレスの善玉・悪玉的なエンターテイメントとしてのニュースが大半で、まともに考えることが難しい
- ・ガバナンスのために対象を知ることが必要だが、理解する前に判断しようとしていないか？
- ・「インターネットガバナンスについて考えるときの英語理解」ぐらいに、「中国のインターネットガバナンスに考えるときの中国語」は必要なのだが、身につける気がある人が少ない

ガバナンスとモノカルチャー

- ・トランプ政権時、Linux Foundation, Apache Foundationが相次いで「OSSは輸出規制の影響を受けない」と英語・中国語で発表
- ・GitHubの新規ユーザが英語圏が大半になるにつれて、Apache Foundation, GitHubなどはチャットでの機械翻訳などを通じて「多言語が前提のコミュニティ」を作ろうと志向している
- ・国や文化圏によって言語や文化は違う。初音ミクやコミケのように、日本語に依存したコミュニティもあった
- ・もう一つ（あるいは一つ以上）のインターネットから我々が学べる（価値観を変えるに至る）ものは何か

どうもありがとうございました。

中国のオープンソース運動について、白書や政策などを翻訳公開しています

<https://github.com/Nico-Tech-Shenzhen/ChinaOpensourceResearch>

オープンソースとイノベーションについていくつか書籍を出しています

「プロトタイプシティ」

「メイカーズのエコシステム」

「ハードウェアのシリコンバレー 深圳に学ぶ」

「ハードウェアハッカー」

連絡先：

高須正和 takasumasakazu@gmail.com

Twitter: @tk

Facebook: <https://fb.me/takasuinfo>

WeChat: takasumasakazu

